

降水量に左右されやすい荒川の水量

荒川流域の気候と川の水の量

荒川は、川の傾きが急なため、降った雨がすぐ海に出てしまい、かつ水や洪水が起こりやすくなっています。

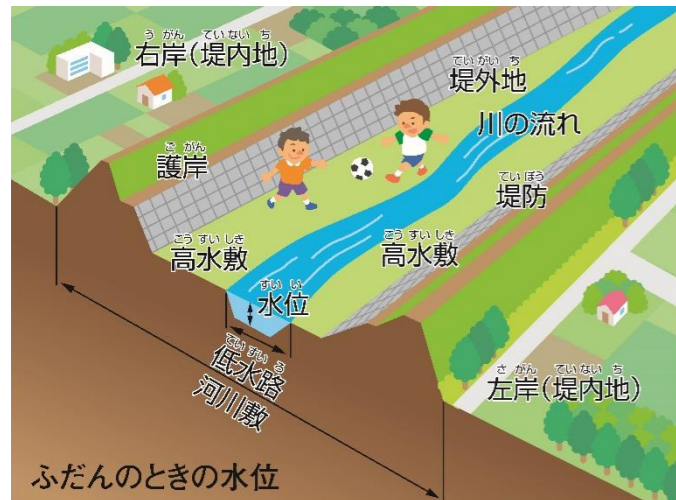
また、荒川流域の気候は、夏に雨が多く降り、冬には冷たく乾燥した「からっ風」が吹くのが特ちょうになっていることから、季節によって荒川を流れる水の量が大きく変化します。

変化する川の水位

水位とは、あらかじめ定められた基準面から水面までの高さのことです。ふつうのときと、洪水のときで川の水位は、大きく変化します。高水敷はふ

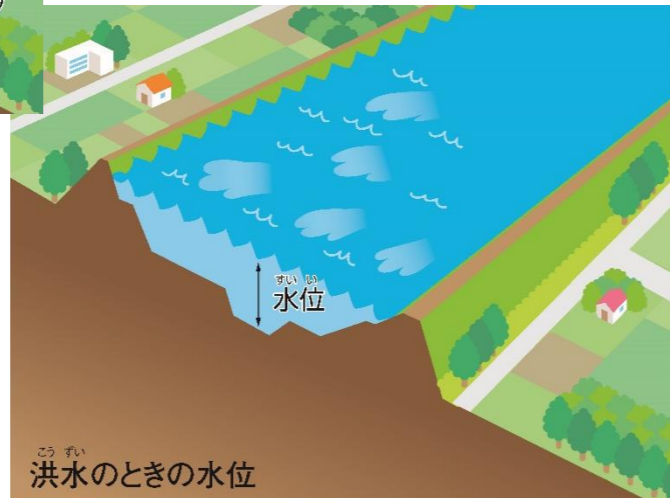
とくに冬は晴れの日が続き、全国的にみても降水量の少ない地域になっています。そのため、春先の雪どけ水が少なく、梅雨時に雨が少い年は、夏に川の水がとぎれ、かつ水という状態になります。反対に、梅雨や台風で雨が多い年は、洪水になります。

だん、公園や運動場などに使われていますが、洪水のときは水の通り道として活やくします。



堤内地.....堤防に守られて私たちがくらししている場所
堤外地.....堤防にはさまれた川の流れる場所
低水路.....ふだん川の水が流れている場所

高水敷.....洪水などで増えた水が流れる場所
右岸.....川の上流から下流に向かって右側(左側は左岸)



※降水量とは.....雨や雪、ひょうなどが地上に降ってくることを降水といい、その量を降水量といいます。降水量は、降水がすべて地面にたまったときの、深さで表します。

かつ水と洪水

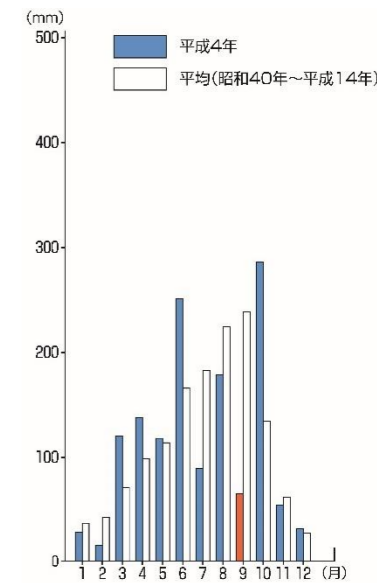
川に水が無くなるかつ水

長い期間にわたって雨が少ないと、川の流れがとぎれてしまう、かつ水という状態になります。かつ水になると、ふだんは水の流れている部分がかわいてしまいます。



平成4年9月のかつ水のようす(熊谷市)

●かつ水のあった年の月別降水量



河川敷いっぱいになる洪水

降った雨が一度に川へ流れだし、川いっぱいになる状態が洪水です。ふだんは、田や畑、公園になっている河川敷も、水の流れ道になります。



平成11年8月の洪水のようす(さいたま市)

●洪水のあった年の月別降水量

